

# 地球の温暖化

## 英語論文からエネルギーと環境とク リーン・テクノロジーの動向を知る

—地球の温暖化対策は、大きなビジネスチャンスでもある—

石油の生産量が頭打ちになったことと地球の温暖化の二つが、  
今、世界の最大の課題である大変な話ではあるが、この二つの  
課題は、当然、これまでのやり方の延長線上では解決が着かな  
いことだから、新たな改善策が必要となる。

その改善策が一つ一つ、新たなビジネスチャンスとなる。改善  
策を見つけること、すなわち新たなビジネスチャンスをつかむ  
ためには、事実をできるだけ正確に早くつかまなければならない。  
また、既に改善策に取り組んでいる先駆者、ビジネスから  
見れば先行の競争相手の「事実」も把握しなければならない。

これらのことについて、日本のメディアが伝える情報は、多分世界の中の1%にも満たないと思われるので、事実をつかむためには、英語で情報を収集するアビリティがなければならない。この新たなビジネスチャンスをつかみ、それを実現すべきセクションには、英語で情報が取れない人は勤まらない。

大変そうだが、英語の能力を向上させるぐらいは、生き延びていくためには何てことはない。そのつもりでやれば、必ず成果がでるのだから、簡単な話といえる。（篠原 泰正 2009/2/24）

(\*）このレポートは、2009年2月、篠原さんが自身のブログ（2005～2008年）から取り出して編集したものである。このレポートは、「知的財産」との関連性が薄いと判断してIPMAのHPにアップしていなかった。しかし、人類にとって「環境とエネルギー」は、最大の課題で、最近「マスメディア」が取り上げるようになった。篠原さんが、このレポートを作成した意図は、世界から発信されている「地球温暖化」に関する情報を読み取り、日本人の「インテリジエンス能力」を復活させるのに少しでも手助けできればと言う思いであったようだ。IPMAは、これまで知的財産に関する能書きを発信してきたが、世界で活躍できる「知財マ

ン」に求められる能力は、詰まるところ「インテリジェンス力」であることに辿り着いた。このレポートは、「地球温暖化」に関する英語論文を篠原メソッド「3\*3方式」で、「英⇒日」の対訳をして、読みやすくしている。英文読解に慣れる教材として向き合っていただければ幸いである。

(発明くん 2023年2月20日)

## 目次

### I.2005年投稿のブログ:先ず事実を出来るだけ正確に掴む

01.ピークオイル、あるいは世界の最大課題

02.グローバル・ウォーミング、あるいはもう一つの大問題

03.引き返し不能地点、あるいはもはや手遅れか

04.水車小屋発電、あるいは女王陛下は本気

05.家庭用風力発電機、あるいは電気メーター逆回し

06.コンテナ発電機、あるいはCIAもグリーンエネルギー？

07.海の波から電気を作ろう、あるいは英国もやるね

### II.2006年投稿のブログ:事実を掴まなければ、

まっとうな改善策は生まれない

08.海の川、あるいは黒瀬川で電気は起こせるのか

09.事実を知る、あるいは気象異変

10.メタンガス、あるいは本当にやばい

11.回帰不能、あるいは憧れの北極航路

12.旱魃、あるいは最大の厄災

13.地球破壊、あるいは俺達はやっちゃった

14.氷河、あるいは水、水、水

15.マグロ、あるいは刺身よ、さようなら

### Ⅲ.2007年投稿ブログ:事実を知れば新たなニーズが生まれる

16.科学的事実、あるいは予測

17.気象異変、あるいはビジネスチャンス

18.水責め、あるいは今日も明日も晴れ

19.6%の責任、あるいは知恵のオープンソース化

20.知恵はでるのか

21.アジアの茶色い雲、あるいはヒマラヤの氷河

22.第3世界への損害賠償

23.北の海からアメリカ南東部へ

24.貝塚

25.日本人の出番、あるいは明るい未来を期待する

◆ 様々な英語文章を「3\*3方式」で、

読みこなすに役立つ教材類の紹介

